

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-〇〇〇〇
施設名	さくらんぼ保育園
施設所在地	府中市紅葉丘1-28-1
法人名	社会福祉法人紅葉の会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

ごっこ遊び

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

2歳児クラス：24名

・バスごっこや、動物ごっこに興味がある。想像を膨らませて遊ぶこと、役になりきることに夢中になって遊び込む姿から、大人との信頼関係が深まり、友だちとの関わりが増えてきたのでごっこ遊びに焦点を当てた。

2. 活動スケジュール

4月～8月バスごっこや動物園ごっこを日常の中で繰り返し楽しんだ。紙芝居では3匹のこぶた、赤ずきんなどオオカミが出てくる話を中心に物語を読んだ。

9月～11月園外へ散歩に出る機会が増え、広い場所で全身を使い、走り回りダイナミックにごっこ遊びを行った。また画用紙やモスリン、色紙など様々な素材を用意し、お子さん自身が自由に選び取る中でより想像を膨らませ、役になりきれるようににした。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

画用紙、カラーコピー用紙、折り紙、モスリン、毛糸、のり、更紙、和紙、どんぐり、松ぼっくり、砂、水、バケツ、しゃもじ、ボウルなどのお皿類。

始めは3～6人程度の少人数でごっこ遊びを行った。また素材が途中で切れることがないように十分な量を用意した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

日々の保育の中でごっこ遊びを行った。一本橋では「3匹のヤギのがらがらどん」、モスリンなどの素材を使用した際には「赤ずきん」「孫悟空」「七ひきの子ヤギ」などお子さん自身の発信に丁寧に寄り添いながら展開を広げていった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

始めのうち「担当と一緒にやりたい」という声が多かったが、次第に「〇〇ちゃんとやりたい」「一緒に遊ぼう」など友だちを誘う声掛けが増えてきた。「〇〇ちゃんみたいにやって」など友だちのすることをよく観察して模倣をする姿や「これ貸して」「いいよ」などの友だち同士でのやり取りも増えた。また11月後半には「このこぶたを食べてやる」と担当が行ったことに対して「だめだ！じゃんけんで勝ったらいいよ！」や、オオカミ役を引っ張りながら「戸棚にしまって…」とあぶくたったに繋げて遊ぶ様子が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

ごっこ遊びを通して集団に気付き、興味を持ち、少しずつ遊びに入ってくる姿が増えた。対大人から対友だちに意識が変わり、日常の中でも泣いている友だちを気に掛けるなどの姿が増えていった。生活の中で経験したこと(じゃんけん・集団遊び・あぶくたったなど)をごっこ遊びの中にも自然と取り入れ始めることからさらに遊びが発展していた。これらの事からお子さん自身が様々な経験をすること、大人が豊かであることが大切であると感じた。